

農林ワーキングでお伝えし たいこと

宮内建築
代表宮内寿和

私が思う、大工職人の使命

人の命と財産を守る

100年以上先の日本のために

この美しい国日本の風景と景観は、今から100年以上も前の先人たちが残してくれたものです。

これから先の100年後の未来の子孫がこの国を美しい国だと思ってくれる未来を我々はつくり残せて行けるのでしょうか。

お伝えしたいこと

設計

- 建築基準法6条4号建築物について
- 建築士が設計したものは、確認申請を簡略化してかまわない。
- ほとんどの日本の大学で木造を教えていない。
- 世の中にいる建築士のほとんどは、木造に関してはド素人である
- 4号建築物で確認申請出されている建物の7割が耐力不足
- 46条壁量計算自体が耐力不足（最低あと1.5倍は必要）
- 30年以内に80%の確率でくる巨大地震
- 近年の住宅は平均28年で取り壊されている。（山で木が柱材として育つのに最低50年）
- そのほとんどが、外国産の木材を利用した集成材や合板
- 建築基準法は最低限度の法律

お伝えしたいこと

大工職人のこと

- 大工の作業小屋は、工場扱いで工業地域にしか建てられない。
- 独立開業するには、約5000万必要 業者登録に最低500万必要
- 大工常用手間、全国平均 1万8千円 実際¥2万4千円は必要
- 建売業者・地域の住宅販売会社や一部のハウスメーカーの大工手間坪単価2万7千円、日当に換算すると8千円～9千円
- 人材育成に年間、一人約300万円かかる。
- 一人前になっても賃金が安く、生活できないため職替えする
- リフォーム工事は特にトラブルが多く、悪徳業者を一掃するためにも100万円以下の工事でも、建設業許可登録をしている業者しか工事が請負ないようにするべき。
- このままでは、住宅工事紛争は増える一方

建て坪35坪の住宅の場合

- 坪単価 2万7千円×35坪=94万5千円
- 上棟時大工応援手間 1人1万8千円×5人=9万円
- 94万5千円-9万=85万5千円
- 各種釘、ボンド、金物、道具消費費等 35坪×5千円=17万5千円
- 85万5千円-17万5千円=68万円
- 68万円÷1人で2か月(月25日)50人=日/1万3千6百円
- 年/250日として年収340万円
- ここからまだ、車、道具の償却費、各種税金など支払い等
- 実際40日くらいで完成しないと生活ができない。
- これでは、大工をしたいという若い人が増えない。
- こんな状態では、精神的にも体力的にも、もたない。完全にブラック企業です。

- 実際にこういった住宅産業の価格に影響され、我々伝統木造住宅も十分な費用が出にくい。
- こう言った、住宅の木材はそのほとんどが、外国産の集成材や合板で造られており国産材は一本たりとも使っていない。

どうすれば！！ 設計

- 4号特例の完全廃止
- 大学でしっかりと木構造を教える。
- 木造住宅の耐震設計を最低でも許容応力度計算で安全性を確認する
- 木造建築士の格上げ(この資格がなければ木造の設計ができない)

どうすれば！！ 大工 職人

- 一人前の大工の手間の最低賃金を決める
- (最低坪50000円 常用手間で¥24000)
- 大工の作業小屋を市街化調整区域でも建てられるようにする。
- 徒弟制度の見直し・人材育成のための補助や税金の免除等
- 実務年数、実績、有資格者からの推薦による、
伝統木造士のような、伝統構法に特化した資格
- ユネスコ世界無形文化遺産で、大工職人の地位の格上げを図り
次の世代が憧れ、誇りに思える仕事として世界にアピールする。